

天栄村生物多様性を促進する農業普及計画

平成23年3月31日

天栄村生物多様性を促進する農業普及計画

1 計画の趣旨

現在、広く使用されている化学合成肥料、化学合成農薬は農地及び周辺環境の生物多様性を低下させ物質循環を阻害するなど、自然環境に大きな影響を及ぼしている。

このような状況の中、天栄村では「生物多様性を推進する農業」の普及拡大を図ることで、生物多様性と物質循環を回復し、合わせて豊かな農村文化・景観の次世代への継承を図る。

2 計画の期間

平成23年度から5年間とし、社会情勢等の変化により必要に応じて見直す。

3 生物多様性を推進する農業の目標

(1) 目標とする姿

農業者自らが生物多様性の保全と農村文化の担い手であることを自覚する、自然環境豊かな天栄村の形成。

(2) 目標数値

天栄村では、次の数値目標の達成を目指す。

項目	現状	目標
有機JAS栽培（水稲）	152a	182a
特別栽培米	97ha	116ha
エコファーマー（水稲）	98名	118名

4 生物多様性を促進する農業として位置づけられる作型・技術等

(1) 特別栽培

(2) 有機JAS栽培

(3) 有機栽培

- ・漢方未来農法
- ・天栄湯本ホテル農法
- ・紙マルチ農法
- ・その他

(4) エコファーマーによる栽培

(5) 冬期湛水

(6) カバークロップ

(7) リビングマルチ

5 施策

農地・水・環境保全向上対策の実施、中山間地域等直接支払制度の活用による設備の維持と耕作放棄地発生を防止する。

環境保全型農業直接支援の活用による「生物多様性を促進する農業」への支援を行う。